

# 令和6年度 第4回学校運営協議会 及び 第2回コンプライアンス委員会

記録 教務課長

1 日時 令和7年2月19日(水) 10:00~12:00

2 会場 本校校長室

## 3 参加者

(1) 学校運営協議会委員

常葉大学 初等教育課程 講師

協同組合 静岡流通センター 専務理事

弁護士法人 ましろ総合法律事務所 代表弁護士

静岡市障害者協会 静岡市障害者相談支援推進センター 事務局長

麻機学区自治会連合会 防災委員長

本校PTA会長

(2) 本校職員

校長、副校長、教頭、事務長、部主事(小・中・高)、教務課長

## 4 会議次第

(1) 開会

(2) 校内案内

(3) 協議

(4) 第2回コンプライアンス委員会

(5) 閉会

## 5 会議内容

(1) 開会

ア 校長挨拶

- ・2月1日(土)に開校50周年記念式典を開催。御出席くださった方、ありがとうございました。オープニングの和太鼓部による演奏、生徒による司会、麻活の発表、記念歌のダンスや歌の披露など、子ども達が主役の式典となりうれしく思います。グランシップでの実施は、子ども達にとって苦手な「環境の変化」や十分な練習ができなかったことから、心配していましたが、まさに「夢中と笑顔」の姿で自信をもって臨んでいました。このことから「子ども達の可能性は無限大である」と感じました。この後、校内を見ていただきますが、「夢中と笑顔」の姿に出会っていただければと思います。
- ・中学部の作業班で、麻機地域のミカンの皮を使ったサシェを作っています。この取組を県のSDGsスクールアワーに応募したところ、最高賞である、教育長賞を受賞しました。このことは、生徒たちをさらに成長させてくれるだろうし、自慢になっていくことと思います。

イ 日程説明

(2) 校内案内(小学部→中学部→高等部)

### (3)協議 令和6年度学校経営についてと令和7年度の学校経営計画について

#### ア 令和6年度の学校経営評価について

##### (ア)令和6年度の取組と自己評価の報告【教頭】

- ・学習指導要領に基づき根拠を持った年間計画の作成や授業づくりができた。保護者に向け、活動の様子やあらわれは伝わったが、何のためにその授業をしているかについて伝わっていない部分があり、保護者評価が90.4%で目標に達していない。そのため、評価はBとなっています。保護者の視点に立ち、分かりやすい言葉や写真などを使って伝えていきたい。
- ・児童生徒理解に基づく夢中と笑顔の授業づくりについては、児童生徒、保護者の80%以上が「授業が楽しい」「学校が好き」と答え、一人一人が楽しいと思える授業づくりをすることができた。しかし、「できるようになったことが増えた」と答える児童生徒は77.4%。「授業が楽しい、できるようになったことが増えた」と答える児童生徒や保護者80%以上という成果目標については、児童生徒と、保護者と二つに分けて、アンケートを実施。児童生徒には答えてもらったアンケートについては、目標に達しなかった。そのため評価はBである。今後、教師が専門性を高め、児童生徒が「やった、できた。」と達成感や満足感を感じることが出来る支援指導の工夫をしていきたい。
- ・ICTについては、多くの教員が、ICTを使用した授業実践に積極的に取り組めた。この項目については、各学部から課題等の報告をする。

小学部は、体を動かし、児童たちが「もっとやりたい」と思えるような授業づくりをしてきた。今年は、「授業が楽しい」と答えた児童は83.9%。答えることが難しい児童を除くとほぼすべての児童が「楽しい」と感じて授業に取り組むことができた。来年度はさらに丁寧な児童理解をもとに適切な目標設定をすることを大事にし、児童がより「できた」と感じ達成感を得られるような授業づくりをしていきたい。【小学部主事】

中学部は今年度、生徒の思考や思いを想定した授業づくりということに力を入れ、生徒ができた喜びや達成感を感じられるように取り組んできた。例えば、先ほど紹介のあった、SDGsの賞を取った活動で言えば、「ミカンを使って製品を作ろう。」と言うと、生徒たちは喜んで「やりたい。」と言うと思うが、そうではなく、一つ前の段階で生徒たちが考え、「これゴミになったらもったいないな。」「どうしたら役に立つかな。」という思いから製品を開発していくというように、生徒の思いというものを大事にした。こうしたことから、生徒たちが成果を感じるということができたと思う。来年度は、今年度の授業づくりの基盤を継続し、実態把握を適切に行い、目標設定をすることを大切にしていきたい。【中学部主事】

高等部も中学部と同じような形で、生徒たちが「こんなことをやりたい。」「こんなことを目指したい。」と思っていることを想定する。その想定から、私たちは生徒の学びの過程をどのようにしていったらいいのかということを考え、授業の組み立てをしてきた。授業の中で、実際に出てきた生徒ののあられを見取り、生徒のやりたい姿、主体的な姿や意欲を引き出すことができた効果的な手立てを教師間で検証してきた。そういったことから、「これができるようになった。」言う生徒もたくさんいた。しかし、一方で、自分から言える生徒ばかりではなく、表出が少ない生徒もいますので、生徒の姿や思いの見取りや想定する力をさらに高めていきたい。ICTの面では、高等部はBYOD化が進む中

で、使えるようにと考えてきた。実際に動くのは来年度くらいと思っているが、それに向けてもまた ICT の充実を考えていきたい。【高等部主事】

- ・月 45 時間以内を目指した時間外勤務の削減については、今まで学校や学部でも、時間外勤務の削減を目指し会議の精選や行事の見直しなどさまざまな取り組みをしてきた。しかし、タイムマネジメントということになると、教員それぞれに意識の違いがあり、自分で決めた時刻の退勤を目指しタイムマネジメントをした職員 100%という目標には至らなかった。また、会議の運営についても、時間内に終了できるよう心がけてきた。そうすることで話し合いが深まるかどうかということについては課題が残るという点もある。そのため、評価は B となっている。
- ・この後の項目については、目標数値を達成できたため、評価を A とした。
- ・自他を尊重し合う環境の維持向上については、多くの挨拶や感謝の言葉が聞かれ自然に挨拶を交わす雰囲気ができている。今後も本校の自慢として継続していきたい。児童生徒のトラブルや気になることについて記録シートを活用し、早期発見対応することができた。
- ・未然防止への行動力と有事への対応力の向上については、ヒヤリハットの情報共有や訓練の実施により、「今何か起こったら」という想像力を働かせていることができた。感染症や熱中症予防対策も行い、今のところ大きなけがや感染症などの拡大はない。
- ・連携に関する、豊かな地域資源への深い理解とそれを生かした実践発信については、麻活の良さを再確認し、さらに充実させることができた。今年度は、特に 50 周年記念式典に向けての取組があり、児童生徒も他学部の麻活を知ることができた。また、これまでの継続の中で、保護者にも麻活の取組を知っていただけた。
- ・1 年後、3 年後、卒業後の後卒業後の夢づくりと関係機関との連携については、保護者とともに学習会や懇談会などで進路について学ぶことができた。さらに個別の教育支援計画や指導計画をもとに児童生徒の将来を見据えた目標を共有し、学校と家庭で連携して取り組めた。

(イ) 質問・意見 (・) とそれに対する回答 (→)

- ・ミカンの皮を使ったサシェ作りの活動では、自ら問題を発見することを教えるのは、大切だ。教師からの問い掛けをきっかけにするのは、効果的だ。
- 生徒の思考を想定しながら授業づくりをするが、想定とは違うことが出てくるのが面白い。思いを大切にすることで、生徒たちが自分たちでやろうという気持ちになり、自主性や主体性を引き出せる。
- ・教員が用意した教材を手にして子供たちが喜んでいるが、ICT の活用との兼ね合いはどのように考えているか。
- 情報教育推進課からの情報提供や活用事例の紹介をもとに児童生徒一人ひとりに合わせた使い方をしていきたい。何のために、その教材、アプリを使用するのかを考えて活用したい。
- ・時間外労働の話から。仕事が計画的にスムーズに進められる人もいれば、時間をかけ丁寧に進める人もいる。その中で、仕事のノウハウを教員同士の交流を通して伝えていくと良い。ノウハウの豆知識も伝えていくと良い。

## イ 令和7年度の学校経営計画について

### (ア)次年度の経営構想・計画案【校長】

- ・教育目標は、これまでの「夢中と笑顔で共生社会を生きる人」を継続。具現化の柱の専門性、安全・安心、連携も継続していく。
- ・成果目標については、各学部主事や各分掌課長と話し合いをして作っている。
- ・専門性の取組について、教務課では、年間指導計画をどう活用していくかという課題に対し、学年で1枚のものに「見える化」し、教師にとって分かりやすくし取り組めると良いと考えている。つながる麻活推進課では、麻活の学校全体としてのつながりを考えながら取り組んでいきたい。情報教育推進課では、ICT活用のスキルアップを目指し、情報提供や実践紹介をしていく。手作り教材と共に活用し、教材を使った支援がより有効になっていくと良いと考えている。文化芸術課や体育課も、教員に向け、情報発信に力を入れていく。また、各学部については、障害理解や児童生徒理解に基づく目標設定を大切にに取り組んでいく。
- ・安全・安心の取組については、防災課でより見やすいマニュアルにバージョンアップさせたり、コンパクトにし使いやすいものにしたりすることを考えている。生徒指導課では、生徒が生活上困っていることを記すシートをファイルにし、有効活用できるものにしていく。保健給食課では、医療的ケアを受ける児童生徒がいるが、関わる教師は一部だが情報は共有し、理解を深めていく取組をする。
- ・連携の取組について、つながる麻活推進課では、自慢の麻活に関する情報を引き続き発信していく。地域連携課、自立活動課では、教員が児童生徒を深く理解し、支援計画や指導計画に反映させ、関係機関と情報共有をしていきたいという考えである。

### (イ)質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・防災について、災害時に備え、個別の支援計画を作る動きがある。災害時に、保護者が一緒にいられない時間帯もあるとすると、障害のある方は孤立してしまう心配がある。過程と連携して考えていく必要があるのではないか。  
→災害時は初動が最も大切だと考えている。マニュアルをより見やすく使いやすいものにしていきながら、まずは命を守ることを最優先で対応していきたい。
- 教員は移動があるので、マニュアルの引き継ぎは丁寧に行った方がよい。特に、この学交通アクセスが良くないので、引渡しや避難誘導は理解して対応しなければならない。
- ・麻活の情報発信に関して、どのような方法でと考えているのか。  
→ホームページで紹介していくが、閲覧できる対象が絞られる。  
→インスタグラムやX（ツイッター）はどうか。  
→教材の紹介なども発信してよいのではないか。

※学校経営計画について、学校運営協議会員の皆様の承認が得られた。

## (4)第2回コンプライアンス委員会

### ア 不祥事根絶への取組報告【教頭】

#### (ア)不祥事根絶全般、交通安全について

- ・不祥事全般については、職員研修で周知した。服務については、長期休暇の前に必ず確認している。また、計画にないものも折に触れて掲示板等で呼び掛けをしたり、県からの資料を掲載し、啓発している。
- ・交通事犯については、グループワークで運転中のヒヤリハットを共有したり、交通安全研修動画の視聴をしたりした。職員が自身のこととして、認識を高く持つよう働き掛ける。これは、人権や個人情報の扱いなども同じ。計画的にあのチェックなどをする。

- ・ 2月にセクハラと体罰のアンケートを実施。回収できている分の中にはセクハラや体罰の該当はなかった。
- ・ 不祥事の原因は気持ちの面が大きい。今後も挨拶などを活発にし、何かあれば言葉を掛け合える風通しの良い職場を目指していく。
- ・ 11月に本校職員が自動車で起こした事故があった。これは、誰にでも起こりうるような事故だった。校内で交通安全についての研修を行った。事故を自分ごととして捉え、事故を起こさないように、学校が一丸となって、今取り組んでいく。【校長】

(4) 質問・意見（・）とそれに対する回答（→）

- ・ 学校周辺道路を通る車のスピードが速い。交通ルールやマナーを守ってほしい。

イ 連絡

- ・ 校舎の立替え工事について。現時点で時期が未定だが、スケジュールを組んでいく。それと並行し、電気や設備の切り回し工事も始まっていく。こちらも具体的なスケジュールは業者が決定してからで、現時点では決まっていない。新しい情報が入ったら、この協議会等でお知らせをしたい。【事務長】
- ・ 去年の時点では、この3月に建替工事を終了し引越す予定だった。業者がきまっていない。教育活動の面でも心配している。グラウンドがいつまで使用できるのかで実施できる行事、そうでない行事がある。現時点では1学期間は使えそうという情報を職員伝えた。【校長】
- ・ 駿河区曲金の静岡視覚特別支援学校の敷地に新校ができる。視覚特別支援学校と、本校高等部の一部が一緒になる。教育委員会として学校名の案が決定した。静岡県立駿河視覚総合特別支援学校。今後正式に決定する。【校長】

(5) 閉会